

## 学長からのメッセージ

2019年末に中国武漢から発生した新型コロナウイルスの世界的な大流行から約2年半が経過しました。世界では約5億6200万人が新型コロナウイルスに感染し637万人が死亡したとのことです(Our World Dataより)。日本においても合計7波の流行を数え、現時点までに約1,030万人が感染し、高齢者を中心として31,598人が死亡したとされています。この数字は、日本の全人口の8%がすでに新型コロナウイルスに感染したことになる大変な数字です。夏休み直前の現在、首都圏を中心として日本全国ではオミクロン株のBA.5変異株を主体とする第7波の襲来を迎えており、1日の新規感染者数は11万人を越して過去最高となっています。

新型コロナウイルス感染症に対応する社会の在り方も大きく変化しました。第一回目の緊急事態宣言が発令された2020年4月7日の東京の1日当たり新規感染者数は87人であった事を思い出すと隔世の感があります。当時、街は閑散と静まり返り、通勤電車も空席だらけでした。第2回目の緊急事態宣言発出前夜の2021年1月7日に東京での新規感染者は2,447人でした。当時の政府の対応は緊急事態宣言の発令により人流を強力に抑制し社会生活をストップさせても必死に感染蔓延を限りなくゼロに制御しようとするものでした。その後、欧米から新型コロナウイルスと共存しつつ社会活動を維持する方針に社会は転換し、現在では首都圏で毎日2万人に迫る新規感染者が報告されながら、我々はマスク・手洗いの励行と三密の回避を守りながら経済社会教育活動を維持しています。

この変化には、デルタ株からオミクロン株へと新型コロナウイルス自身が弱毒化したことも関係していますが、何と言っても近年の遺伝子科学の進歩によりわずか1年余りの短期間で有効なワクチンと治療薬が開発された事が関係しています。本学でも昨年夏に政府からの呼びかけに応じて学生と教職員を対象とした新型コロナウイルスワクチンの第1及び2回目を、また今年の5月には第3回目のワクチン接種を職域接種方式で実施しました。これにより学内での対面授業を安全に実施できる体制が整いました。

新型コロナウイルス流行以来、本学でも本年6月までに、累計105名の学生、5名の教員、10名の職員がPCR陽性となりました。幸いな事に全て発症は学外での感染であり、学内での感染クラスターは報告されておりません。これは学内における感染防御手順の励行が功を奏していると言えます。本学では、職域接種が完了した5月のゴールデンウィーク明けからは、完全対面授業と実習が再開されて現在に至っています。学内には学生の笑顔が戻り、本来の学生生活が戻りました。また、薬学科の5年生は制約はありつつも病院と薬局で臨床実習を続けています。今や、本学の学生は感染リスク低減の努力と毎朝登校前の体温測定等の体調自己管理を行いつつウィズコロナの状況ではありますが可能な限り正常を取り戻していると言えます。

前期の定期試験が終了すると夏休みを迎えます。夏休み期間には旅行やクラブ活動等を計画されている方も多いと思います。しかし、夏休み期間中であっても前期の登校期間と

同様の新型コロナウイルス感染リスク回避の慎重行動を続けて下さい。9月からの後期授業開始日には全員が笑顔で登校されることを期待しています。

令和4年7月18日

学長 越前宏俊